



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和5年10月31日
学校だより11月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き!今井大好き!」

今リンピックを終えて

学校長 松永 史郎

先週28日の土曜日、無事に今リンピック（運動会）を終えることができました。当日ご来校いただいた皆様には、子どもたちが一人ひとりの力でがんばる姿、あるいは友だち同士協力して取り組む姿をご覧いただけたのではないかと思います。この日までの子どもたちのがんばりを応援して下さった皆様に、改めて感謝申し上げます。

さて、私が以前に勤務していたある学校の話です。その学校は、外国籍や外国につながる子どもが全校児童の半数以上を占めていました。

外国からやってきたばかりの子は、運動会というものを全く知らない場合がほとんどで、運動会の練習が始まると、多くの子が戸惑いを見せていました。それでも、練習を重ねるうちに、次第に目を輝かせるようになり、当日は演技や競技、応援等に、日本の子と同じように生き生きとした表情を見せながら全力で取り組む様子が見られました。その学校ならではの特色として、子どもたちが世界のさまざまな国や地域の言葉でアナウンスをしたり、それぞれの国や地域の衣装を着て聖火リレーを行ったりしていたことを懐かしく思い出します。

そのときに、運動会は、たとえ国や文化が違って、子どもたちが生き生きと活躍できる行事なのだということを実感しました。

そのように日本独自の文化の一つとも言える運動会ですが、長年にわたる歴史の中で変わらないこともあれば、時代の変化により変わってきたこともあります。

例えば、本校を含め、多くの学校が運動会を半日開催にしています。そもそもは、熱中症対策として、炎天下で過ごす時間短縮のためにそうなってきた経緯がありますが、それに加えて、本校のような小規模校では、無理に種目を増やして午後まで引き延ばすよりも、午前中に集中して取り組んだ方が、より教育的な効果が大いのではないかという判断がありました。また、ご家族でお弁当を囲む楽しさがある一方で、早朝からのお弁当作りや場所取りのご負担、ご事情で開催日に来校することが難しい家庭への配慮もありました。そのような理由から、今井小学校では今後も運動会は午前中開催の方向で進めていこうと考えています。

とは言え、単純に時間短縮ということだけでは教育活動の充実にはつながりません。内容を改善し、子どもたちが輝く場を創り出していくことが大切です。

その一つとして、昨年からは実施している選択種目があります。今年も、全校児童が応援団、綱引き、リレーのどれか一つ自分が一番輝けそうな種目を選びました。また、今年も、全学年実施の徒競走で、当日の本番でも全校児童のタイムを計測し、本人の以前の記録と比べてどれだけ伸びたか確認できるようにしました。大きな学校では時間の制約でなかなか難しいことですが、小規模の本校でこそできた取組です。

コロナ禍が一段落して、初めて開催の今リンピック（運動会）ということで、このような改善の工夫をしながら、今後の方向性も鑑みての実施でしたが、いかがでしたでしょうか。さらなる改善に向けて、ご意見のある方はお寄せいただくと幸いです。



今リンピックという大きな行事を経て、子どもたちは心身ともに一回り大きく成長することができたのではないかと思います。学校は、今後も、また違った場面で子どもたちの輝きをサポートしてまいります。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。